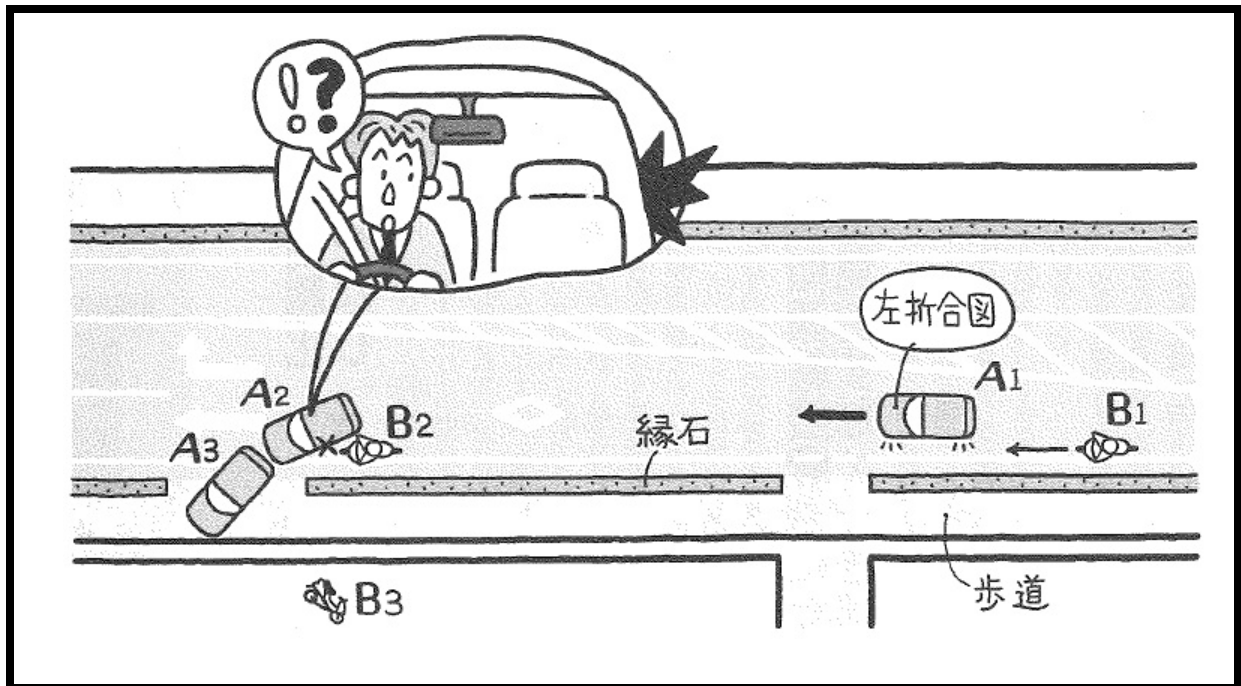


■事故の概況



事故類型：左折時

発生日時：夏の朝

当事者A：普通乗用車 20歳代 男性

当事者B：原付自転車 10歳代 男性

■ 事故の概要

Aは通勤の為、往復2車線、幅員6.6mの道路を時速約50kmで走行していました。勤務先の駐車場のすぐ近くまできたので、徐々にブレーキをかけはじめ、速度が十分落ちたと感じたとき、左に方向指示器を出して左折を開始したその直後、Aは左側面に衝撃を感じて停車しました。A車の左側面には後方から追突してきたB車が衝突していた。

BはA車を前方に見ながら道路左端をA車と並走していたが、突然Aが左折を開始した為、回避できずに衝突しました。

■ 事故から学ぶ

Aが左折時に減速はしたものの、左折直前に左後方の安全をよく確認しなかったのが原因です。二輪車は前面投影面積が四輪車に比べて小さいので、見落とされやすい存在です。また、乗用車の左側の死角に原付自動車が入ってしまうと、現実に車両があったとしても運転者にとっては「車両はない」という判断をしてしまい、事故につながります。

この道路はAが毎日使っている通勤路ということで、Aは特に緊張することもなく運転していたのではないかと思います。しかし、よほど慣れた道といっても、通過している車両や路面の状態は、日ごと時間ごとに変化します。特に注意すべきポイントである交差点や右折・左折をする際にはどのような点について安全確認すべきか、しっかりと認識しておきましょう。